

坂本養川の繰越堰

八ヶ岳の裾野に広がる田園風景は、坂本養川の考案した「繰越堰」という仕組みによって、水田開発が行われ、集落が形成されたことによるといえます。養川の功業は水不足の地域に用水を導いただけではなく、水争いの絶えなかったこの地域全体の水利体系を見事に再編成したことにあります。



比較的水量が豊富な滝之湯川の水を水不足地帯に送るため、幾つかの河川を横断方向に結ぶ水路を開削し、小河川などから水を集めながら順繰りに送り、かつ、沿線の用水配分を見直して、既存の水路改良を行いました。滝之湯堰沿いには坂本養川の彫像が設置されており、地域の偉人として語り継がれています。

坂本養川の繰越堰の年次別開削

開削年	堰名
天明5(1785)	滝之湯堰
天明6(1786)	一之瀬堰
	坪之端堰
寛政3(1791)	鬼場堰
	鳴岩堰
	千ヶ沢新堰
寛政4(1792)	車沢堰・塩之原堰
	立場川乙事堰
	程久保堰
	大河原堰
寛政11(1799)	相之倉堰
寛政12(1800)	柳川三ヶ村堰
	棚田堰
	矢戸倉堰

1 滝之湯堰



【所在】茅野市北山～豊平
【築造】江戸時代(1785年頃)
【管理者】茅野市滝之湯堰土地改良区



田沢村(現茅野市宮川)の名主であった坂本養川が、高島藩へ献策したことにより開削された最初の水路です。「芝漙(しばだたえ)」と呼ばれる取水方法は、河川を木・枝葉・石で堰き止めて取水する構造で、河川下流にも水を流すことを前提としています。堰筋は、洪水の影響を受けにくい硬い岩盤を探し、くり抜いて水を引き込むなどの工夫がされています。



2 おおがわらせき 大河原堰



【所在】茅野市北山～玉川
【築造】江戸時代(1792年頃)
【管理者】茅野市大河原堰土地改良区



「乙女滝(おとめだき)」という人工の滝(落差工)があります。これは、滝之湯川から導水してきた用水を、渋川を横断させるために造られたもので、河岸の急峻な崖を一気に落下させ、集水した水を掛樋(かけひ)で渡し、渋川からの補給水と併せて下流へ導水しています。この滝が農業用水路の一部(落差工)であることを知っている人は少ないですが、現在では茅野市の観光名所の1つとなっています。



3 やながわさんかosenせき 柳川三ヶ村堰



【所在】茅野市豊平～原村
【築造】江戸時代(1686年頃)
【管理者】原村



柳川と立場川に挟まれた地域は、神野(こうや)と呼ばれる諏訪明神の御狩場であったといわれ、農地として利用されていませんでした。江戸時代にこの神野を新田開発するため、柳川を水源として、1686年に開削されました。原村の柏木・払沢・ハツ手の三新田村の請願を受けた高島藩が、2,000人を越える賦役を得て、僅か20日程度で建設したといわれています。



4 ごうどせき 神戸堰



【所在】富士見町富士見
【築造】江戸時代(1805年頃)
【管理者】富士見町



富士見町西山地区は、地形的に慢性的な水不足地帯であったため、用水確保は地域の悲願でした。最初は、程久保川から取水し武智川を樋で渡した1本の水路「程久保堰」として開削されましたが、その後、新堰の開削や取水口の変更が行われ、武智川横断部を樋から繰越堰としたことで、程久保川の水は「程久保堰」、武智川の水は「神戸堰」として導水されることとなり、飛躍的に農地の水田化が図られました。



5 みしゃかいけ 御射鹿池



【所在】茅野市豊平
【築造】昭和8年(1933年)
【管理者】茅野市湖東笹原土地改良区



日本画の巨匠・東山魁夷画伯の作品「緑響く」の題材として有名なため池で、木々の緑を映すコバルトブルーの水は訪れる人々を魅了しています。冷害常襲地のうえ、渋川の水は強酸性でしたが、ため池で水を希釈し温めることによって、米の収穫量は大きく増加しました。湖底には酸性水を好むチャツボミ苔が繁茂し、湖面には木々がきれいに映り、「ため池百選」に選定されています。



7 たてしなこ えんとうぶんすいこう 蓼科湖の円筒分水工



【所在】茅野市北山
【築造】昭和27年(1952年)
【管理者】茅野市滝之湯堰土地改良区



滝之湯堰の主な水源となっている小奇川は水温が低かったため、水を温めるため池を築造しました。ため池の築造箇所は、久保田堰の取水源だったことから、江戸時代からの取り決めにより、滝之湯堰と久保田堰は9:1を踏襲する必要があり、円筒分水工により分水することで水争いも減りました。さらに毎年の芝漙え作業が軽減されるなど、水管理の効率化が図られました。



6 しらかばこ 白樺湖



【所在】茅野市北山
【築造】昭和21年(1946年)
【管理者】茅野市池の平土地改良区



茅野市北山に広がる水田は、冷害により植えつけた稲の3割が青立で実らないことがあったようです。昭和5年、水を溜めて温かくするため、蓼科高原にため池を築く工事が着手されました。戦争により昭和19年に一旦中止となりましたが、昭和21年、全区民の努力によりため池が完成しました。武田信玄が北信濃制覇の軍議の際、御座岩に腰を据えたときとされている御座岩遺跡が白樺湖に眠っています。



8 えぼし いけ 烏帽子ため池



【所在】富士見町落合
【築造】昭和26年(1951年)
【管理者】富士見町



標高1,000m近い高原で水稻を栽培するため、水不足解消と水を温めるため池として築造されました。生活用水や防火用水としても利用されており、地域用水としても大切に管理されてきました。最近、維持管理や将来の利用を考える烏帽子・平岡両区の人たちが、憩いの場として活用するため、子供たちの意見も聞きながら、水辺デッキ等の親水や景観にも配慮した整備が行われています。

